

勸善懲惡 讀切講釈

時々風も松平猛死落方のおと一嵐

長七郎とさよふ一の世を裁す

大晴のほろこもあてかろん

阿波座からまか太良助の

住家小身をよせ夜毎

日よとの歡楽をかき

小袖の廓がもみ刀の

詮美揚代の

切羽はもうし

輕尻不宮根

八里の馬士唄ハ声も高野の祠堂金

三千兩を我もの支へるものをとろり

左りかゝるの手のうち水もたまたぬ日本橋

志ざいの轉宿浪人定小僅花一日の栄耀

時ゆららまやと勸懲の一端ホまら

雲の世の斬を巡るを移るぬ 芭蕉

花源堂記

松平長七郎

詮美揚代

馬士政

切羽

